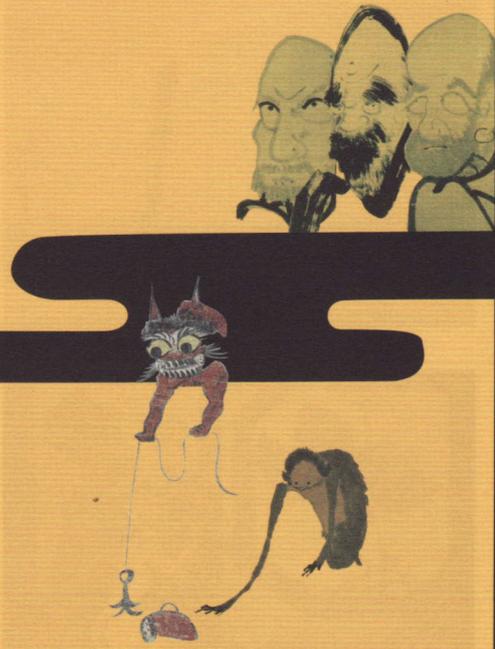
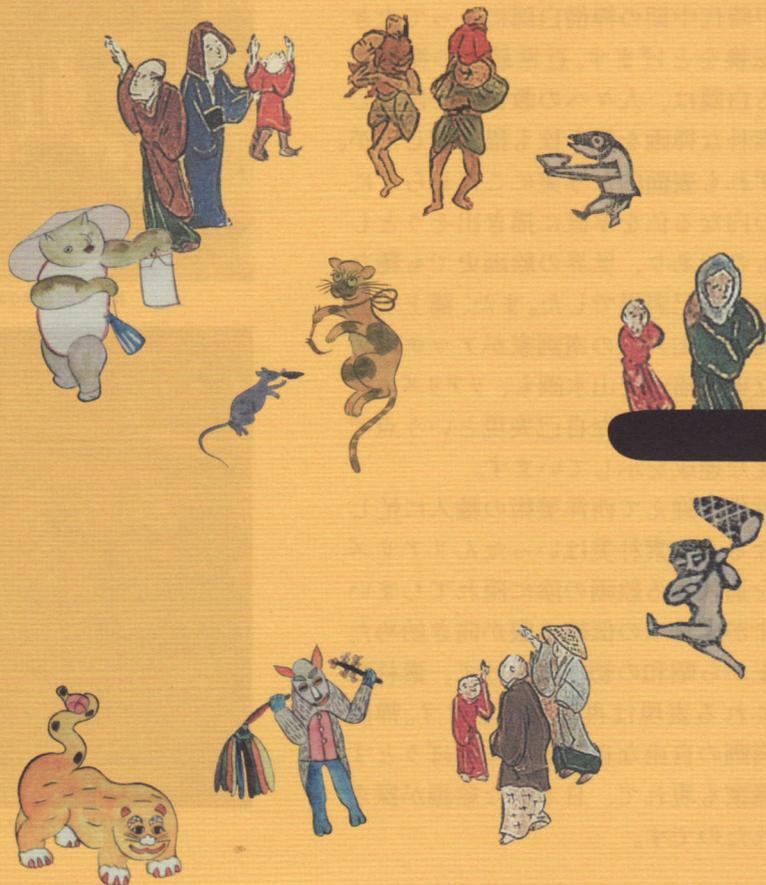




素朴美の系譜

江戸から大正・昭和へ



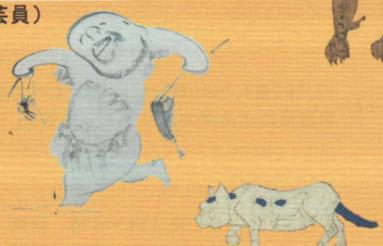
'08年12月9日～'09年1月25日

展示替え 前期12月28日まで 後期1月4日から

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）*金曜日は午後7時まで（入館は午後6時30分まで）
 休館日：12月15日（月）、22日（月）、24日（水）、29（月）～1月3日（土）、5日（月）、13日（火）、19日（月）
 入館料：一般300円（240円）小中学生100円（80円）
 *（ ）内は団体10名以上 / 60歳以上の方および障害者の方は無料 / 毎週土曜日は小中学生無料
 座談会：「日本の素朴画を語る」12月13日（土）午後2時～
 出席者：星野鈴（東京造形大学教授）、浅井京子（八王子市夢美術館館長）、矢島新（当館学芸員）

The Shoto Museum of Art
渋谷区立松濤美術館

東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL 03-3465-9421
渋谷駅下車徒歩15分、京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分



素朴美の系譜

江戸から大正・昭和へ

世界の美術史をリードしてきたヨーロッパや中国では、迫真的な写実を追求する絵画が歴史上大勢を占めていましたが、その周辺に位置した日本では、素朴な味わいに富んだ絵画が、時代を超えて盛んに描かれています。

室町時代のお伽草子絵巻や、近世初頭の参詣曼荼羅や大津絵などの庶民的な絵画に最初の花を咲かせた素朴美は、江戸時代中期の禅僧白隠によって大きな転換をとげます。近世最大の禅僧である白隠は、人々への教化の手段として素朴な禅画を数千枚も描きましたが、いずれも表面的な写実にこだわらずに心の内なる仏を率直に描き出そうとしたものであり、世界の絵画史でも稀な自由な自己表現でした。また、浦上玉堂や岡田米山人らの南画家がアマチュア立場で描いた山水画も、リアリズムにこだわらぬ清新な自己表現という点で高度な達成を示しています。

近代を迎えて西洋美術の輸入に忙しくなると、素朴美はいったんリアリズムを追求する絵画の陰に隠れてしまいますが、日本の伝統に眼が向き始めた大正から昭和の初期にかけて、素朴味あふれる表現は再び噴出します。禅画や南画の自由な自己表現に学ぼうとする画家も現れて、日本的な絵画が探求されたのです。



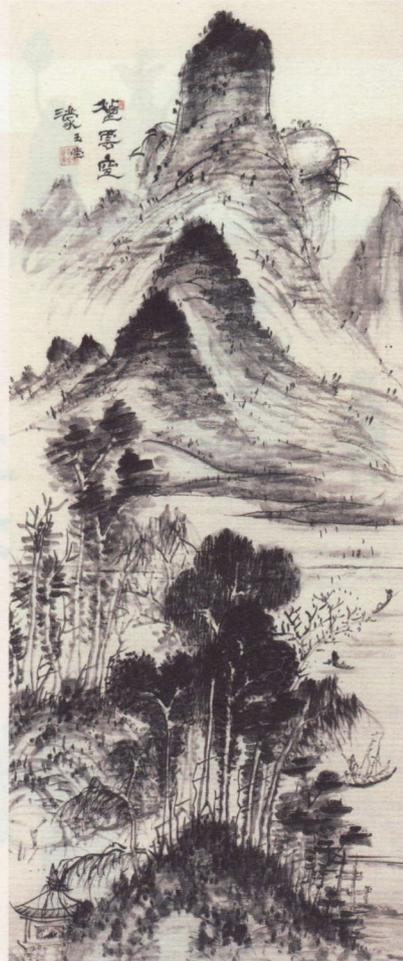
白隠「蟹と蛙」



熊谷守一「三日月」(豊島区立熊谷守一美術館蔵)



谷中安規「蝶を吐く人」



浦上玉堂「煙雲空濛図」(遠山記念館蔵)



長谷川利行「カフェの入口」(府中市美術館蔵)

【座談会】

12月13日(土)午後2時～「日本の素朴画を語る」
星野鈴(東京造形大学教授)、
浅井京子(八王子市夢美術館館長)、矢島新(当館学芸員)

【美術映画会】

12月14日(日)午後2時～3時15分
「国宝 鳥獣人物戯画」「日本の美 日本人の原風景」
1月24日(土)午後2時～3時15分
「国宝 源氏物語」「日本の美 日本の色」

【ギャラリートーク】

12/19(金)、1/4(日)、1/16(金)すべて午後2時～
学芸員によるギャラリートークです。

【美術相談】

1月17日(土)午後2時～4時 講師：山崎弘(油彩)
1月25日(日)午後2時～4時 講師：舟橋淳司(水彩)

I 素朴表現の胎動と展開

(社寺縁起絵、大津絵、俳画他)

II 江戸の素朴な表現主義

(白隠の禅画、浦上玉堂の南画他)

III 近代の素朴回帰

- 1、リアリズムから素朴へ
(小杉放庵、萬鉄五郎、岸田劉生他)
- 2、晩年の素朴スタイル
(熊谷守一、梅原龍三郎、中川一政他)
- 3、我が道を行く素朴
(横井弘三、長谷川利行)
- 4、余技としての素朴画
(富岡鉄斎、夏目漱石、武者小路実篤)
- 5、創作版画
(川上澄生、谷中安規、棟方志功、料治熊太)



The Shoto Museum of Art
渋谷区立松濤美術館

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL.03-3465-9421
渋谷駅下車徒歩15分、京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分